

惣代借財調

- 一 金五百両や
- 一 〃 百五拾両や
- 一 〃 式百五拾両や
- 一 〃 四百両や
- 一 〃 式百式拾両や
古借用の分
- 一 〃 百両や
- 一 〃 式拾両や
- 一 〃 百両や
- 一 〃 式百両や
- 一 〃 三拾五両や
- 一 〃 五百五拾両や
- 一 〃 式百両や
- 一 〃 百両や
内金三両返上
- 一 〃 五拾両や
- 一 〃 五拾両や

貫	大	長	八	彦	五	八	立	九	弥	森	文	同	傳	惣	門	庄
見	井	左	左	右	之	之	石	左	次	田			四		三	左
村	沢	衛	衛	衛	門	助	外	衛	右	林	藏	人	郎		郎	衛
		門	助	門	助	門	寺	人	衛	助	分					門

年号記入ナキ
 毛筆書出ノ順位
 カラ文三年
 (八六二年)ト
 推定ス

一〇五拾兩ヤ
 返上仕、
 只木様ノ

一〇百兩ヤ
 庄左衛門藏

一〇五拾兩ヤ
 佐新之兵衛助

一〇五拾兩ヤ
 是は宮坂様借取引受會所并金の分
 堀米四郎兵衛

一〇於五兩ヤ
 是は八日和田村ふ足助合貸付有之
 同人

一〇百兩ヤ
 弥右衛門

一〇式拾兩ヤ
 弥右衛門

一〇七拾兩ヤ
 五兵衛次衛門

一〇式拾五兩ヤ
 白岩
 弥右衛門

一〇五拾兩ヤ
 谷地
 庄藏

此金三千三百八拾式兩ヤ

外金九拾五兩 役人より借用有之

金三百七拾七兩 御役所より借用分

合金三千八百五拾四兩也

差引

金式百四拾八兩三分式朱 不足

永式拾四) 式分

一九、

松橋村上組

三郎兵衛母

とよ 八十巻六

小

助母

た 八十六

右は今般入於才以上の男女取調書上可申旨と仰渡承知奉畏銘々村々一村限り相改ハ處書面の
通相透無御座ハ依之此段書付を以奉申上く 以上

松橋村上組

興頭

久五郎

庚午戌デ
文久二年
(一八六二年)

庚 七月十六日

二〇、

乍恐以書付奉願上

当御支配所

羽州村山郡

松橋村上組
百姓 卯 右衛門
訴訟人

同御支配所

同州同郡

同村下組

百姓 與 藏

相手

三 吉
小 三 郎
金 三 郎

質流地押領出入

右訴訟人百姓卯右衛門乍恐奉申上く相手與藏儀同村住居年末悪意の者にて先年より金銀取引罷在質地賃の分去ル安政六年九月別紙証文写の通同村御高辻の内字沢畑上田五畝式歩之附米於式儀の場所金三於五兩にて質流地に引受親類組合運印地元村役人見届ケ與印附の証文請取の所右同年より私進退可仕儀の所右地面引渡レ方不速にて一向皆明不申勿論小作米等も故障有之ニ付初年より一圓不相済且大切の御年貢米永も割当不申如何の取計之ハ我難茨至極ニ付相手の者江は勿論村役人江も数度懸合ハ得共不取留儀申向一向に取敢不申甚々驚入遁々懸合取詰ハ勿右地面不正の趣にも相聞左ハ得は場所為相犯同村地面不相渡御年貢米永等も割賦無之一同馴合全押領可致素々より取巧ハ次ギヒ今更心付案外至極数年の向躰能相欺キ作徳米共に押領いたしハ儀相透無御座談に以欺ケ敷次ギ右様ヒ取計ハハハ百姓相統ヨ相抱リ難儀至極にハ向何卒格別の御慈悲を以右相手の者一同御召出御糺明の上右地面正奥の分相渡去戌年迄四ヶ年分小作米損失無之相済ハ様ヒ仰付上下置ハハ百姓永續仕廣大の御仁恵ト難有

亥八癸亥ア
文久三年
(一八六三年)

仕合ニ奉存ク依之証文写相添乍恐此段以書付奉願上

以上

亥正月

右訴訟人

百姓 卯 右衛門

差 添

組頭 三 德

柴橋

御役所

前書之通奉願上ハニ付奥印仕奉差上ハ 以上

右村

名主 堀米 四郎兵衛

月 日

一一一

乍恐以書付奉願上

当御支配所

羽前村山郡松橋村

卯 右衛門

当亥より午迄式拾ケ年季定

一 新規質屋株願

此奥加永式百文

但卷ケ年社
御上納社

内永三拾文

御吟味増

亥八癸亥デ
文久三年
(一八六三年)

右は卯右衛門并村役人一同奉申上、当村におゐて差定小賃屋と申ものも無御座困窮人共融通
不宜卯右衛門儀は可也融通出来小ものに付引賃貸いたし居小処々般の御沙汰難黙止奉存村内
相談の上同人儀前書の通御冥加永御上納仕小向何卒新規賃屋稼被 仰付ヒ下置度奉願上、御
間済相成小上は取續は勿論利安の上賃物相当の代金貸渡困窮人共何れにも行立小様可仕義
御座小向右願の通御向届ヒ成下小様仕度乍恐村役人連印書付を以偏奉願上、 以上

右願人

亥

五月十八日

柴橋

御役所

百姓 卯右工門印

百姓代 万次郎印

組頭 三徳印

名主 堀米四郎兵衛

一一一

乍恐以書付御訴訟奉申上、

当御支配所松橋村下組文蔵同村上組惣平一同奉申上、近年打續大豆遠作、付小前一同味噌仕
込方至て手薄の心配罷仕小処当亥年春以来旱魃よて畑作枯縮小上秋分霖雨冷氣に相成畑方不
足の折柄何程の取分り相成小哉難斗弥以必要の夫喰味噌可仕造様有之同敷奉存私共兩人相談
の上大豆買入方手配仕尤大勢の百姓相続に抱り小義に付深く心配いたし中野目村林吉取次を

以大石田村本町茂兵衛方より九月晦日取引にて大豆貳百俵買入手金等相渡し賣証札請取の前日限取引可致小処品物不揃にて渡方難滞に小向十月晦日迄待候小様右取次人林吉江頼入其旨書付差入書類相遠も無之儀、付安心仕為任中に延引罷在右十月晦日手先の者江残金為相持大豆請取方に差遣い処如何の心得小哉右茂兵衛彼是と無謂故障申張日限晦日ふ相渡加え品物等も有無ふ相分当惑仕い得共夜分におよび深更迄談示も相成兼宿許江引取翌早朝素々取次人林吉同道請取方及相談、小処嘲笑ひ一向、取敢不申其方共江用事無之小向早々引取可申旨申しに付驚入追々及掛合小処茂兵衛申聞いには朔日、相成小向手金流右一条には面談相成兼小向立去小様高声に申張何様懸合いても埒明不申当惑難滞仕小向無據惣平其外の者共一同右村名主久兵衛方江罷越居懸り歎願仕小処品々利解も申聞小由、小得共村役方の札方にも不應却て不当申募り十方に暮立帰小得共多分の金子差出小上右大豆不請取小ては第一前段申上、味噌仕込方差支一同の難儀出未可申は眼前の儀然る処慈愛を以一応取引延引いたし小恩分も忘却仕前頭の次才にては素々取次人林吉一同馴合手金等押領可致取巧と相見得以の外不実の仕儀右様取相欺小ては身上相続、相抱勿論大勢の難滞に相成小向其段大石田村役人江懸合小上無扱此段御訴訟奉申上、何卒格別の御慈悲を以右相手茂兵衛御呼出御糺明の上約定の大豆早々相渡小様と仰付与下座度乍恐以書付奉願上、以上

松橋村下組

文 蔵

同 村上組

惣 平

右村面組兼

亥十一月

亥八癸亥デ
文久三年
(一八六三年)

新見 蟻 威 様

柴 橋

差 添
組 頭 孫 三 郎

御 役 所

前書之通奉願上レ付與印仕奉差上、以上

右村上組
名主 堀米四郎兵衛

同 下組
組頭 佐 七

二二二

乍恐以書付願上、

堀米四郎兵衛奉申上、異国船渡来以未

御上様よて追々臨時の御出方打統品々御處置之次才もヒ為在御趣にて莫大の御入用の御程奉
恐承数百年

御恩澤の冥加には身分相應の御国恩未熟ながら奉報度且其都度に乍聊上納金仕先代より郡中
窮民救方種々取斗安米賣渡は勿論施事年来いたし奇特御賞與として安政の度苗字御免ヒ仰付
冥加至極難有仕合奉存、右様の次才よ就ては猶更の儀御用途献金は勿論救方等何様にも出精
仕度尤窮民救方の儀は

当御役所よおみても厚く蒙御沙汰い、付御支配所村々探索仕い宛極難村も有之様子に付右等の村方は追々取調い積りに御座し得共近頃引續彼是物入多にて金子手詰右仕法も行届兼残念至極歎ケ數次才奉存し然る宛先年秋元但馬守様御領分高嶺村弥平次と申もの江金子貸遣しい宛返済無之、付無拠天保十二丑年中同人相手取江戸表江出訴仕御尊判相附追々御調の上济方の儀嚴敷御利害有之猶御吟味中の宛掛合の上济願高金三百七拾五両之内当金済金七拾両同十三奥十二月二日請取残金三百五両の内五拾五両無利足貳百五拾兩は月志歩の利足に相足翌卯十二月限り不残返済の積り証文書替熟談内済いたし訴答連印济口証文奉差上い宛御聞届相成一同帰村仕然ル宛期月過ぎりても返済不致い向種々及掛合い宛猶

御奉行所御吟味の上济口証文差上い儀にい得は聊違約無之又い出訴相成い様にては奉対御奉行所忍入い向月延猶豫いたし吳い様達て相歎不実の儀も有之向敷と差心得無拠差延遣い宛追々程能申延置返済無之故嚴敷催促およびい宛透約の上不都合の挨拶而已畢竟右用立金を以何程の用弁し相成殊济口証文期月通返滞い節も勘弁を以出訴も不致差延置い恩義忘却今更返済無之段不実十万の儀一躰弥平次儀秋元但馬守様御領分、おみても際立いて身元、返济方等差支は聊無之ものにい宛品能申延置い内天保十四卯年十二月中貸金等相对济ヒ、出、に付出訴も難相成と見透志歩の安利にても既式拾有余年元利取調いは、千兩余にも可相成金高可踏
倒所存

御奉行様迄欺きい致方にて奥よ歎ケ敷徹骨髓刺返済難出未杯申し眼前不実の次才以外の義にて右相对济御觸面にては奥意を尽し取引いたし 御奉行江出訴不相成を見込弁損可致杯と心得いものは急度御吟味も可有之の趣に有之然る上は弥平次儀右御觸の趣不相背奥意を以元

丑八之月
度元
(二八六五年)

利滞高金千両余早々濟方仕小様其筋江厚御懸合ヒ成下小様仕度奉願上、左小は、右金を以郡中難村困窮のもの共救方取斗兼々御沙汰の御国益筋とも取斗且先代よりの奇特筋ヲ相表様仕度宜御資察ヒ成下小様偏奉願上小 以上

丑八月

当御支配所

羽州村山郡松橋村
名主 堀本 四郎 兵衛
組頭 三 徳

柴橋

御役所

前書の通堀米四郎兵衛申立小取調小宛弥平次儀身元宜ものに小宛本文四郎兵衛申立小通去ル天保年中ヒ仰出有之上は逆も出訴は致同敷と差合不実の致方ニ相透無之尤弥平次儀奥以困窮にて返濟差支小程のものに小は、四郎兵衛儀右様申立小心得のものに無御座此節ニ至り小ては弥平次儀追て身上向立直り右等も素々難波の砌用弁いたし小故の儀ニ可有御座奥以恩分忘却不実の致方にて悔り小始末且は右様小実心得透のもののため

御益筋心掛小儀も存し通難相動様相成村々救筋も出来兼先代よりの續志も難遂石様の儀其俣差置小ては自然御支配所村々江も相響融通向ニ差支御取締向にも抱り小儀と乍恐奉存ク向前書の趣厚く御賢察ヒ成下早々弥平次より四郎兵衛方江濟方相成小様漆山御役場江御懸合ヒ下度此段與書を以奉願上、 以上

丑八月

柴橋

御陣屋附
郡中惣代

仁左衛門

柴橋
御役所

乍恐書付を以願書下奉願上々

当御支配所松橋村上組名主堀米四郎兵衛より秋元但馬守様御領分高榎村弥平次江相掛リ貸金滞濟方の儀漆山御役場江御掛合奉願ハ一件同所ヨル御取調中當會所詰郡中惣代仁左衛門漆山同所弥八両人氣の毒に存咄に立入夫々示談および仁左衛門儀は四郎兵衛の事奥承リ弥八は弥四次の方面糺ハ互に不行届致方も有之ハ得共貸借の差別相分ハ儀に付、西人申合借用金高の内三於五西弥平次より差出外金於面は仁左衛門弥八両人ヨテ取償都合金四於五西此度相濟殘金は四郎兵衛用捨いたしハ積リ取咄ハ双方無申分ハ熟相整四郎兵衛江右金相渡弥平次より差入口証文同ハ江相返シ取引相濟右は全く、御威光故の儀ハ難有奉存ハ然る上は右一件に付重て御願筋無御座ク依之願書御下ケヒ成下置ハ様仕度此段御聞届の程幾重にも奉願上ハ以上

寅(丙寅)
慶応元年
(一八六六年)

寅 正月廿六日

右願人

名主 堀米四郎兵衛

組頭 久五郎

柴橋

御役所

郡中惣代

仁左衛門

乍恐以書付奉願上々

御檢見取之処

当寅分申迄七々年新規定免願

一高千八百九拾式石三升七合

此反別八拾四町三反七畝廿壹分

此誤

田高千七百三拾壹石壹升三合

此反別六拾町壹反五畝拾四卜

高式百八拾八石九斗七升三合

此反別九町八反六畝拾八卜

殘高千四百四拾式石四升

此反別五拾町式反八畝廿六卜

此取米三百六拾九石式斗式升三合

米式斗^内 定免願ニ付増

畑高百六拾壹石式升四合

此反別式拾四町式反式畝七卜

内高三拾式石壹斗壹升五合

出羽國村山郡

松橋村

跡引

落引

畝廿五卜

九合

反三畝於式卜

式斗三升六合

升六合 上組

九反三畝廿卜

石三斗式升九合

升 畑田成

反三畝十三卜

石三斗九升壹合 諸引

壹反四畝卜

麥唐五百於石九斗三升八合

此反別於七町四反九畝於三卜

此取米百式於石六斗六升四合

内米壹斗 定免願三付増

畑高六於九石壹斗九升七合

此反別於町三反七卜

内高九石五斗壹升 諸引

此反別壹町壹反式畝九卜

残高五拾九石六斗八升七合

此反別九町壹反式畝九卜

此取米式拾三石壹斗七升四合

高千百六拾壹石五斗壹升壹合 下組

此反別五拾壹町四反四畝壹卜

此 畝

田高千六拾九石六斗八升四合

此反別三拾七町五反式畝壹卜

内高百四拾石五斗八升四合

此反別四町七反式畝拾八卜

残高九百式拾九石壹斗式合

此反別三拾式町七反九畝拾三卜

此取米式百四拾六石五斗五升九合

内米壹斗 定免願=付増

畑高九拾壹石八斗式升七合

此反別拾三町九反式畝卜 諸引

内高式拾式石六斗五合

此反別式町九反サセト

疾高六於九石式斗式升式合

此反別於志町志畝三ト

此取米式於四石六升式合

右は当村の儀御検見取に小刃当郡は一鉢雪國に付早雪の年柄は御検見請ひては雪下に相成小年柄も向々有之既去丑年中旁取入相後れ悉皆雪下に相成生干御米にて御廻米可挺立様無御座御救歎願をも相願い御年柄百姓同様不小難茨罷在小次ヤニ付御定免相願旨小前の者共相願尤定免相願いには格別の増米不在は容易難ヒ仰付御趣意の趣奉承知い得とも近年引續透作の上都て物価は存外の高値に付自然疲果困窮罷成且亦荒地起返等は追々免増并本免入等ヒ仰付猶昨年

御勘定様御下向の初御歳重ヒ仰付い上の儀増米難義には御座い得共御趣意難黙止奉存右増米仕向何卒当寅より申迄七ヶ年定免ヒ仰付い様仕度此段後重にも奉願上く右御箇届ヒ成下置いは、百姓一同難有仕合よ奉存、依之村役人連印を以奉願上く

丑年ハ
慶応元年

寅ハ
慶応二年
申ハ
明治五年

寅ハ丙寅デ
慶応二年
(二八六六年)

右村下組

百姓代 勘 平

組 頭 孫 三 郎

左 七

同村上組

百姓代 万 次 郎

寅 二 月

組頭 三 徳

久五郎

名主見習

堀米 要之助

名主

堀米四郎兵衛

三字 堅作様

柴橋 御役所

二六

乍恐書付を以奉願上

当御支配所松橋村大町村工藤小路村新町村戸沢上総之介様御領分北口村下工藤小路村秋元但馬守様御領分前小路村荒町村右八ヶ村村役人惣代新町村組頭源次郎外七人奉申上、右八ヶ村は谷地郷と唱え宿場にも無之織田兵部少輔様御領分郡山村并谷地郷村々横道にて諸家様人馬其外継立未小刃分般右郡山にて彼是難波申立已未継立難仕旨願上、趣を以右御役場より御掛合御座い趣ヒ仰付承知仕然ル、一谷地郷の儀前申上、通御料御私領入会の村々且横道の儀よ付人馬差支の儀間々有之難波には御座い得共御遂行御差支又相成、いでは恐多義と存天保度右八ヶ村役人申合、志ヶ月の日数村高み割合相当の日数を以順番に継立分勤、未小刃郡山よおるて難波筋申立継立方不仕谷地郷より六田村迄継立、い様罷在、いでは仕未、抱り難波は御座い得

卯八
慶応三年
子八
明治九年

共此節差支難波申立御用人高差支いでは恐入い義に付来卯より来る子迄於ヶ年限り郡山に助
人馬差出い心得を以六田村迄継送い様可仕尤又々郡山まで波、申立同様の継立いでは仕来を
破村方のもの気変み抱り兎角人馬差支い様可相成は歴然の義ニ付拾ヶ年過る年み至りいは、
仕来通り郡山村にて継立い様天童御役場江御掛合ヒ成下度此段備み奉願上く右願の通御願届
ヒ成下置いは、難有仕合に奉存く 以上

寅八丙寅テ
慶応二年
(一八六六年)

寅
五月

新町村

組頭 源次郎

名主 見習 卯兵衛

大町村

名主 龍二

名主 弥之助

工藤小路村

組頭 仁衛

名主 申井竹次

松橋村

組頭

名主 堀米四郎兵衛

山田佐金二様

御役所

私共村々当寅定免年季明ニ付切替又は新規定免の儀先御支配中奉願上御吟味の上御伺ヒ成下
小廻今般左の通り御下知相濟ハ段ヒ仰渡承知奉畏ハ然ル上は年季中假令水旱損等にて損毛相
立ハヒも田方三分以上に不相当分は定免通上納仕畑方の儀は一國江も抱ハ程の義は格別容易
に御引方不相成且田畑ヒも損地小前持高十分一ハ不相当分は定免中御引方不ヒ仰付旨とも上
仰渡承知奉畏ハ右に付小前惣運中の御受書は村役人共方江可取置旨是亦ヒ仰渡奉畏ハ依之御
請印形差上申廻如件

寅ハ丙寅テ
慶応二年
(一八六六年)

寅
九月十二日

新規当寅より卯迄定免ニケ年

卯ハ
慶応三年

一萬千八百九拾弍石三升七合

松橋村西組

此反別入於四町三反七畝廿卷卜

此取米四百拾六石四斗五升九合

内
米弍斗 新規定免去丑増

此 誤

高七百三拾五石五斗弍升六合

松橋村上組

此反別三拾弍町九反三畝廿卜

此取米百四拾五石八斗三升八合

内
米壹斗 新規定免去丑増

高千百六拾壹石五斗壹升壹合

松橋村下組

此反別五拾壹町四反四畝壹卜

此取米式百七拾石六斗四升壹合

丙 米壹斗 新規定免去丑増

松橋村上組

寅 九月十二日

百姓代 与 吉 印

組 頭 仁左衛門 印

” 佐 七 印

同村上組

百姓代 万次郎 印

組 頭 久五郎 印

名 主 堀米四郎兵衛

山田佐金二様

柴橋

御役所

二八

乍恐以書付奉願上々

当御支配所

羽前村山郡松橋村

堀米四郎兵衛元尼介弟

友
当藏三十三次

右の者儀一躰淫酒にて家業向不精身持放埒に付親類のものト異見差加へいても不相用弥増身
持不埒にい向林伊太郎様御役所江勘当帳外願上御前済の上帳外ト仰付身寄のもの江罷越後悔
相慎居今般親類組合のもの江只管詫入己来心底相改農業出精可仕帰住願いたし吳小様申に付
篤と心底承り届小処相詫小通尤出先におゐて悪事出入故障等無御座奥に改心仕小躰に御座小
向何卒御慈悲を以帰住ト仰付ト下度此段書付を以奉願上く

右願の通ト仰付ト下置小はく難有仕合奉存く依之親類組合村役人一同連印書付を以幾重にも
奉願上く 以上

右
友 藏 兄

堀米四郎兵衛

親類惣代
利 助

組合惣代
四 郎 次

村役人惣代
組頭 久 五 郎

慶応三寅年
(一八六六年)

慶応二寅年

十月十七日

山田佐金二様

柴橋

御役所

乍恐書付を以奉願上く

一米八拾俵や

但 米拾俵三人三付

右は当御支配所村々之内極窮民のものよて病氣又は當方差支餉金にも可及程の窮民にて縦令親類有之いても供に困窮にて扱方手届兼いもの共江扱方取斗い様仕度奉存く乍聊書面の通差出相備置い様仕度乍恐書付を以此段奉願上く 以上 当御支配所

慶應三卯年
(八六七年)

慶應三卯年
十二月

羽前村山郡

堀米四郎兵衛

安部権内

柏倉文藏

工藤入之助

守井半左衛門

榎久右衛門

安孫子伝四郎

青柳

長岡
仮御役所